

「徳島の橋かるた」の製作とその効果

阿南高専 正会員 ○森山卓郎

1. 目的

阿南高専創造技術工学科建設コースは、従来からの土木系科目に加えて建築系科目を学べるようになってから、建築分野に興味がある学生が増えている。その一方で、従来の土木分野、特に橋梁に興味がある学生が最近少ないように感じ、筆者はそれを改善することを目的とした土木教育に関する取り組みや研究もこれまで行ってきたり。その取り組みの延長上として、阿南高専の学生だけでなく、小中学生にも地元の橋梁に興味を持ってもらえるように、徳島の橋梁に関するかるたの製作を考えた。かるたとしたのは、例えば橋を紹介するパンフレットなどを製作しても捨てられやすく、本などではよほど関心がないと手に取って読まないと考え、何か変化のある教材がいいと考えたからである。

かるたは、16世紀にポルトガルから伝来したと言われている。日本ではお正月の子供の遊具として使われてきたが、近年は「土木偉人かるた」や「防災かるた」など教材としても注目され、様々なかるたが製作されている。そこで、教材としてのかるたに着目し、「徳島の橋かるた」を製作してその効果を検討した。

2. かるたの製作

2.1 概要

徳島県では昭和の初めに、「橋を見るなら徳島に行け」と言われるほど、その時代の技術の粋を結集してつくられた当時国内最大級の橋が吉野川に建設された。その後も徳島県内には、大鳴門橋のような長大橋や環境に配慮してつくられた阿波しらさぎ大橋、船が通るときに橋桁が上昇する可動橋の加賀須野橋など様々な橋が建設された。ドイツ人俘虜がつくった石造アーチのドイツ橋や祖谷のかずら橋などのユニークな橋もある。そのような地元の多種多様な橋に興味を持ってもらうために、徳島県北島町の建設コンサルティング会社の株式会社エー・アンド・ビーの協力により、徳島県全域から選んだ48の橋の写真を使用した「徳島の橋かるた 48橋 全県版」を2021年5月に完成させた(図1)。

このかるたは、何人かで集まらなくても、1人でも学習できる自習教材としても活用可能である。かるたの絵札裏面には、子供にもわかるような表現で、その橋についての説明だけでなく、橋から見た徳島の地理や歴史などの説明文も記載した。小中学生には橋のことだけでなく、橋から見た徳島の地理や歴史、郷土愛の育みなどの学習支援にも役立てばと考えた。高専の学生は、空いた時間などにこれを見たりすれば、建設分野や橋梁工学の基礎の学習だけでなく、徳島の地理や歴史など一般教養の学習の一助にもなると考える。コース未決定の高専1年生には、2年次のコース振り分けの際の建設分野の参考にもなればと考えた。

かるたのフチなどの色は、徳島県特産の阿波藍を意識して藍色をベースとした。かるたに使用した橋の写真は、すべて協力企業と筆者が撮影したものである。



(a) 外箱表面と内箱底面のデザイン



(b) 絵札表面と絵札裏面(説明文)の1例



(c) 読札表面の1例と読札裏面

図1 徳島の橋かるた 48橋 全県版

かるたの印刷は、県外の専門の業者に依頼し、300 セットを製作した。

2.2 配布

このかるたは、希望者に無料配布を行った。本校 web や地元の新聞などでアナウンスしたところ、県内全域から問い合わせが殺到した。徳島の橋の写真を用いたかるたはこれまでなかったため、特に小中学生の子供やその保護者、祖父母にも大変好評いただいた。徳島県立図書館などからの寄贈の希望や小中学校の校長先生をはじめとする教員らからの希望もあるなど、教材としても評価していただいた。その後、200 セット追加印刷を行ったが、欲しいという希望がまだ多かったため、学内外の関係各位の支援により、さらに 200 セットの追加印刷を行い、合計 700 セットを製作した。これまでに徳島県内のケーブルテレビの番組や市や町の広報紙など、多くのメディアでもこのかるたを紹介していただき、そのたびに問い合わせやかるたを欲しいという電話やメールが寄せられた。

関連グッズとして、かるたに使用した橋の写真を並べた A4 サイズのクリアファイル（図 2）も製作し、こちらにも希望者に無料配布した。徳島県内全域のほぼすべての中学校にも、かるたと一緒に配布を行った。2021 年 12 月には、かるたに掲載した橋の写真を用いたカレンダーの製作も行い、これも希望者に無料配布した。

3. かるたの活用

3.1 出前授業の実施

2021 年 9 月に、このかるたも活用した「徳島の橋について学習しよう！」というテーマの出前授業を阿南市内の中学校で実施した。1 年生と 2 年生合わせて 40 名の生徒は熱心にかるたに取り組み、終了後にこのかるたを欲しいという希望者も数名見られた。担任教諭の話では、次の日も生徒は橋の話をしていただけのことである。送られてきた生徒の感想文は、「色々な橋のことを知ることが出来てよかった」など良好なコメントが多かった。

3.2 アンケートの実施

出前授業を行った中学校の生徒にアンケートを実施した結果、好評のコメントが多く見られた。アンケートは一般の方にも実施したところ、概ね好評の評価を得られた。当初、中学生や高専生を想定して製作したが、予想以上に小学生が遊んでいるとのことで、ふり仮名を書いてほしいという希望が複数の回答に書かれていた。

4. まとめ

これまでに様々な対応をした範囲では、「徳島の橋かるた」を行うことで、小中学生や高専生の橋梁への関心が多少は高まったように思われたので、このようなかるたの製作と活用は効果的と考える。今後は、今回入れられなかった橋梁を入れた第 2 弾の「徳島の橋かるた」を製作するなどして、小中学生や高専生により橋梁や土木に興味を持ってもらえるような試みを継続していく予定である。今後、かるたを製作する際には、小学生がより遊びやすくなるように、札にふり仮名を入れるなどの改良も検討していきたい。

参考文献

- 1) 森山卓郎、角亜矢香：土木史と土木遺産による話題提供が工業高専の学生に及ぼす教育効果に関する考察、土木史研究講演集 Vol.38、pp.75-78、2018。

謝辞

株式会社エー・アンド・ビーの代表取締役 阿部義弘氏ならびに同社社員の皆様には、かるたに使用した橋の写真撮影や説明文の作成、かるたの配布などで多大なご支援をいただきました。厚くお礼申し上げます。

また、公益社団法人土木学会四国支部事務局からも、かるたの追加印刷や関連グッズのカレンダーの印刷の支援をいただきました。ここに記して、感謝の意を表します。

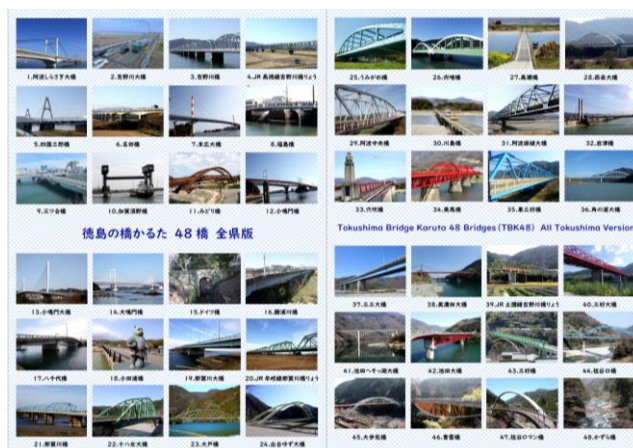


図 2 関連グッズとして製作したクリアファイル